

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第5部門第2区分
 【発行日】平成17年9月29日(2005.9.29)

【公開番号】特開2004-68976(P2004-68976A)
 【公開日】平成16年3月4日(2004.3.4)
 【年通号数】公開・登録公報2004-009
 【出願番号】特願2002-231518(P2002-231518)

【国際特許分類第7版】

F 16 D 65/18

【F I】

F 16 D 65/18	B
F 16 D 65/18	A

【手続補正書】

【提出日】平成17年4月26日(2005.4.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

アクチュエータの作動によって得られる直線的なブレーキ作動入力をクサビ伝達機構にてピストン軸方向のブレーキ作動出力に変換することにより、シリンダ部に組付けたピストンがその軸方向に駆動されて、制動力が発生するよう構成したクサビ作動式ブレーキ装置において、前記クサビ伝達機構を、前記ピストンと一体的に移動するピストン側プレートと、このピストン側プレートに対向して配置されてハウジングに一体的に設けた反ピストン側プレートと、これら両プレート間に配置されて各プレートの係合面に対してローラを介してそれぞれ係合するクサビ部材と、前記ローラを回転可能に保持するとともに前記クサビ部材を直線移動可能に保持して前記クサビ部材の直線移動時には前記両プレートによりガイドされて移動可能なホルダとを備える構成としたことを特徴とするクサビ作動式ブレーキ装置。

【請求項2】

前記アクチュエータの作動によって得られる直線的なブレーキ作動入力が前記クサビ部材に引っ張り力として作用するように構成したことを特徴とする請求項1に記載のクサビ作動式ブレーキ装置。

【請求項3】

請求項1または2に記載のクサビ作動式ブレーキ装置において、当該ブレーキ装置はパッドとディスクロータを備えたディスクブレーキであって、前記ピストンは前記シリンダ部との間に介装した皿ばねにより前記ディスクロータから離間するピストン軸方向に付勢されていることを特徴とするクサビ作動式ブレーキ装置。

【請求項4】

請求項1乃至3の何れか一項に記載のクサビ作動式ブレーキ装置において、前記ピストンと前記シリンダ部間に、前記ピストンの軸方向移動を円滑とする軸受を設けたことを特徴とするクサビ作動式ブレーキ装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】**【0006】**

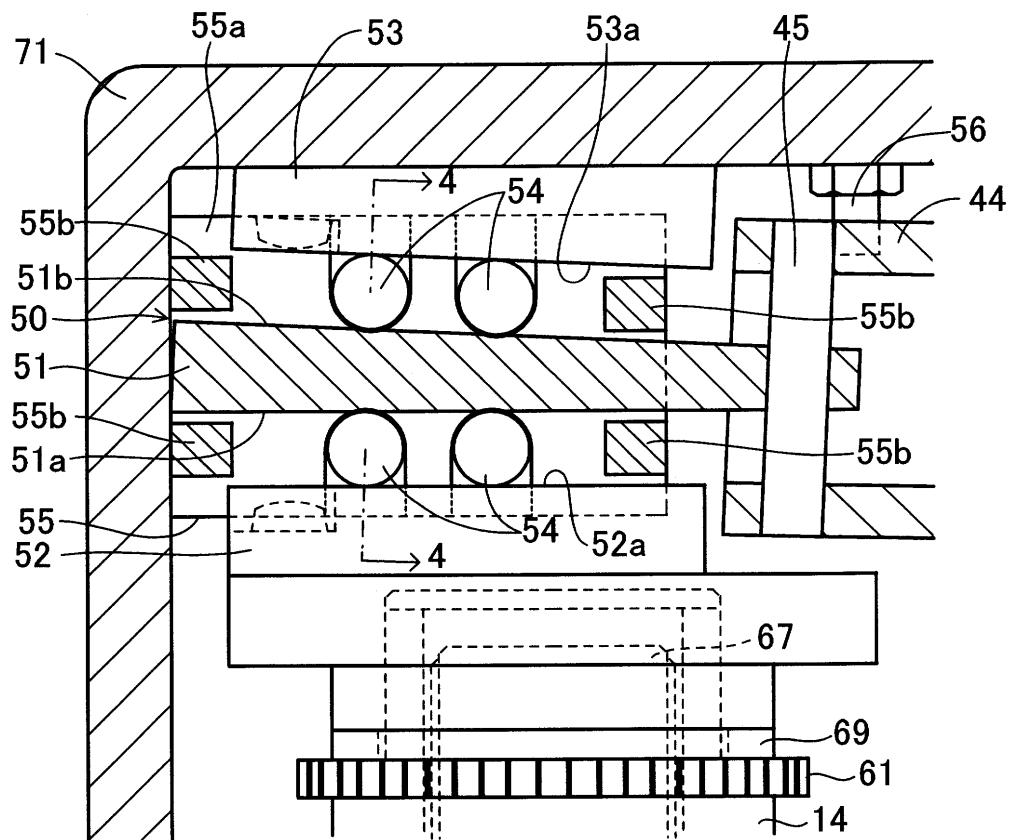
この場合において、前記アクチュエータの作動によって得られる直線的なブレーキ作動入力が前記クサビ部材に引っ張り力として作用するように構成すること（請求項2に係る発明）が望ましい。また、本発明の実施に際して、当該ブレーキ装置はパッドとディスクロータを備えたディスクブレーキであって、前記ピストンは前記シリンダ部との間に介装した皿ばねにより前記ディスクロータから離間するピストン軸方向に付勢されていること（請求項3に係る発明）も可能である。これらの場合において、前記ピストンと前記シリンダ部間に、前記ピストンの軸方向移動を円滑とする軸受を設けること（請求項4に係る発明）も可能である。

【手続補正3】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0014****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0014】**

ピストン14は、キャリパ15のシリンダ部15bに固体潤滑材等からなりピストン14の軸方向移動を円滑とする円筒状の軸受16を介してシリンダ軸方向へ摺動可能かつ回転可能に組付けられていて、キャリパ15のシリンダ部15b間に座板17とともに介装した皿ばね18によりディスクロータ11から離間するピストン軸方向に付勢されている。また、ピストン14には、隙間自動調整機構60の構成要素であるアジャストホイール61とアジャストナット62が一体的に設けられている。

【手続補正4】**【補正対象書類名】図面****【補正対象項目名】図2****【補正方法】変更****【補正の内容】**

【図2】



【手続補正5】

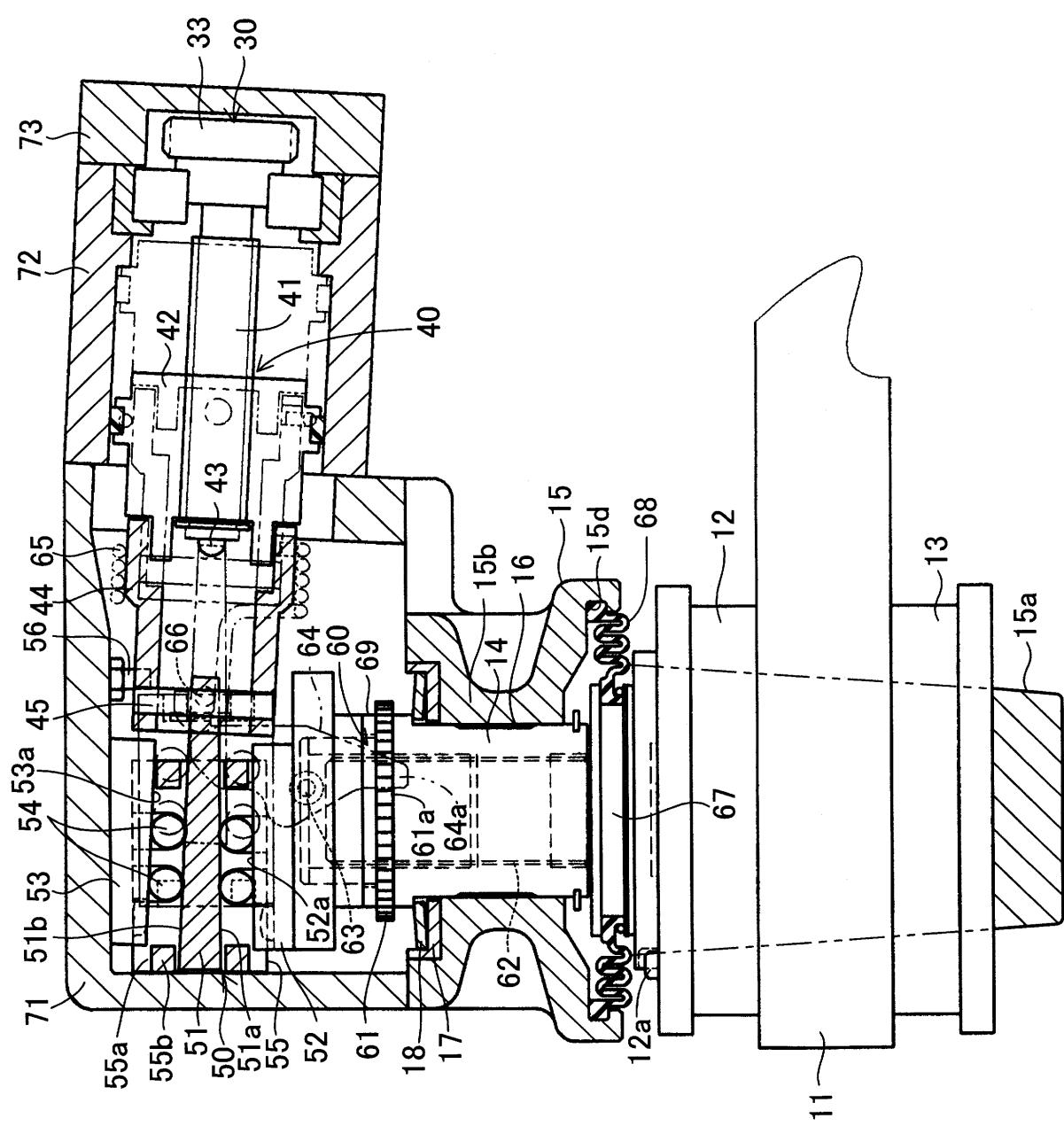
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図3】



【手続補正6】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図4】

